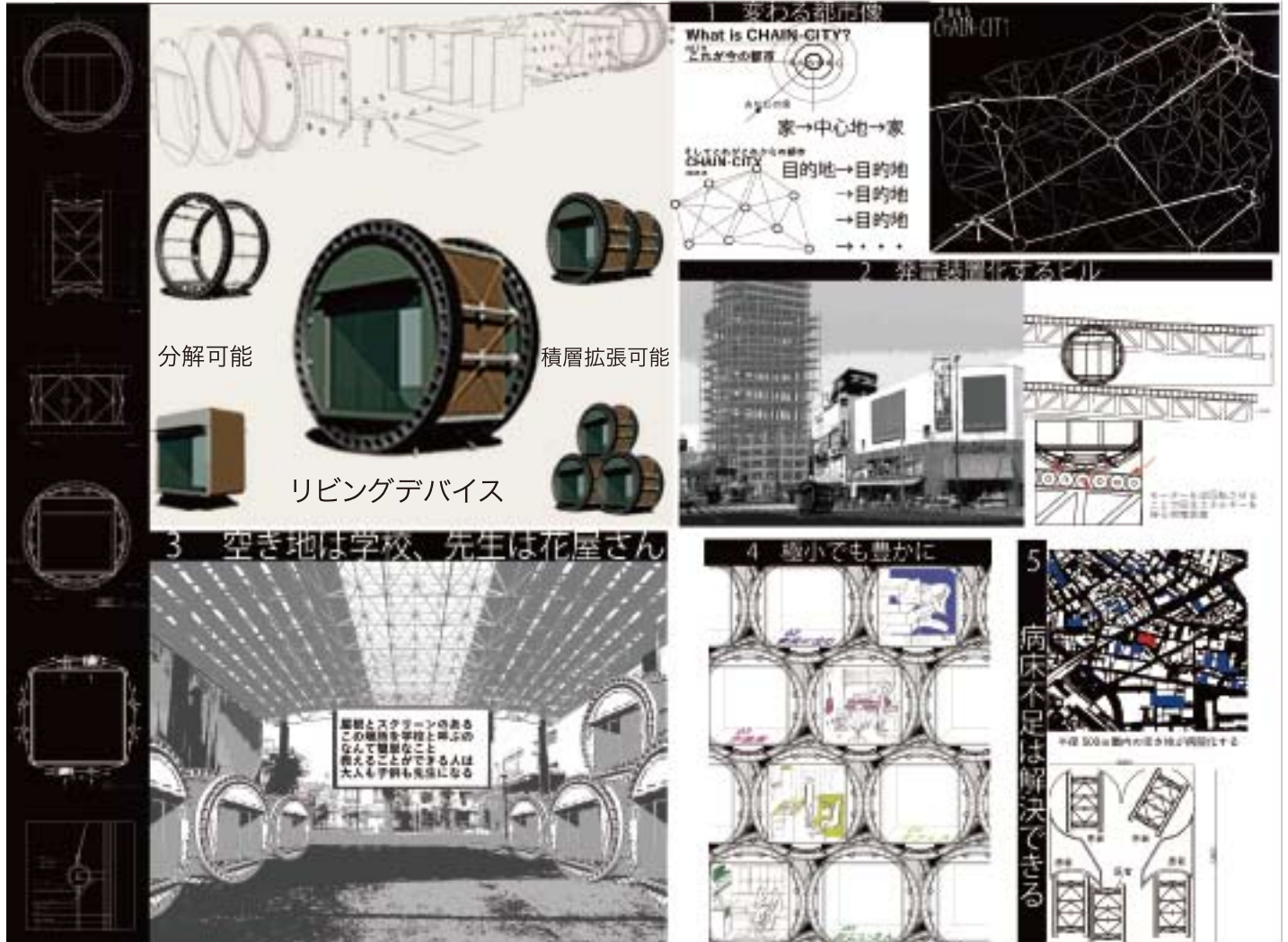


西村賞

自由を手に入れるための対価

明治大学 建築学科
名前 小久保 友貴



設計主旨 concept

自動運転技術が確立するとされる2045年。その時暮らしは、都市はどのように変わるだろうか。移動時間という概念がキャンセルされたとき人はどれほど自由になれるのだろうか。常に自分の空間と共に在れたならどれほど自分らしく生きることができるのだろうか。ひとつの移動式単身者用住居を設計する。ある人は旅をするように暮らすかもしれない。たくさんの友人と大家族のように暮らすかもしれない。都市はインストールされ、アンインストールされるものになる。iPhoneが世界を変えたようにこの居住機械は革命を起こす。教育制度も医療環境も、根幹から変わってしまうだろう。建築はもはや不動の存在ではいられない。これは次の未来を作るテクノロジーの提案。

僕も彼女と同様、自動運転技術の実用化は、都市の有り様と僕らの暮らしを根本から大きく変えると思っている。暮らしが、都市が、どう変わるのかと妄想を始めれば、限らないテーマである。彼女は、そこに居住との組み合わせを妄想してみた。すると移動という概念が都市から消えた。さて、未来は…。終戦直後から連載が始まった「鉄腕アトム」は、手塚治虫による妄想の最高傑作だ。21世紀の今、彼の妄想は、ほぼ日常になった。彼の妄想から、様々な技術や文明が生まれ、産業となり、僕らの生活の礎となった。建築家の妄想もそう有りたい。これからの彼女の妄想の広がり活躍が楽しみだ。

(講評 西村 浩)